

トラック輸送情報（平成20年7月分）

平成20年10月24日

国土交通省 総合政策局 情報政策本部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：桑原、佐藤 内線28722

直通：03-5253-8346

ホームページ：<http://toukei.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

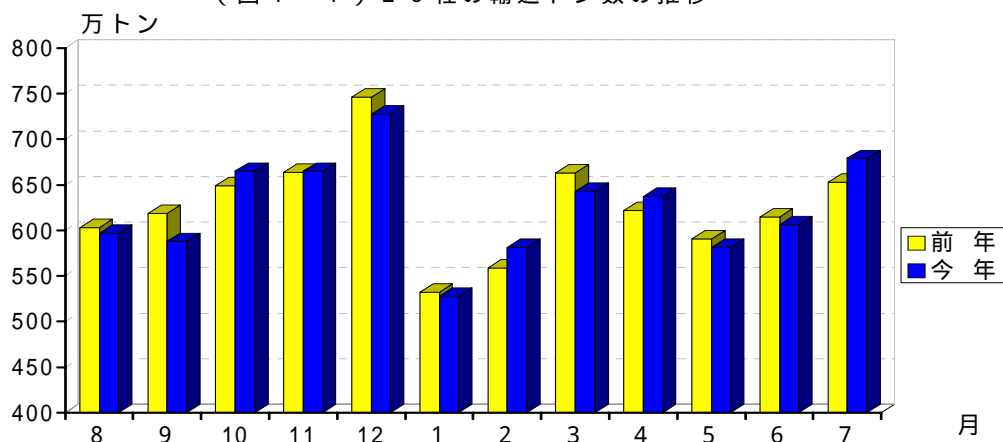
調査対象26社の本月の輸送量は、6,794,176トンで、前月と比べ総輸送量が約73万トン増加したため、前月比112.1%（季節調整済み101.1%）となり、前年同月との比較では、約27万トン増加したため、前年同月比104.1%の実績であった。

なお、平均稼働日数は25.3日で、前月と比べ0.9日の増加、前年同月と比べ0.9日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、268,545トンで、前月と比べ約2万トン増加したため、前月比108.1%となり、前年同月との比較では、約1千トン増加したため、前年同月比100.4%の実績であった。

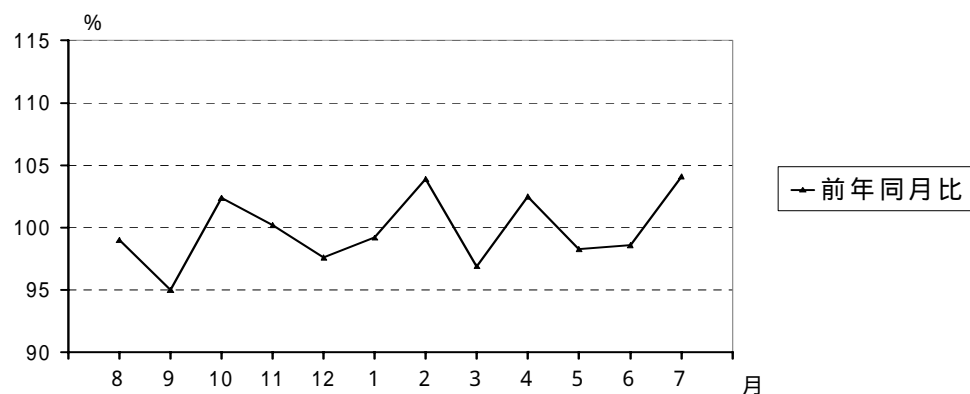
（図1-1、図1-2参照）

注）平成20年4月から貨物輸送の調査対象については、従来対象としていた7社の合併により26社となった。

（図1-1）26社の輸送トン数の推移



（図1-2）26社の輸送トン数の前年同月比



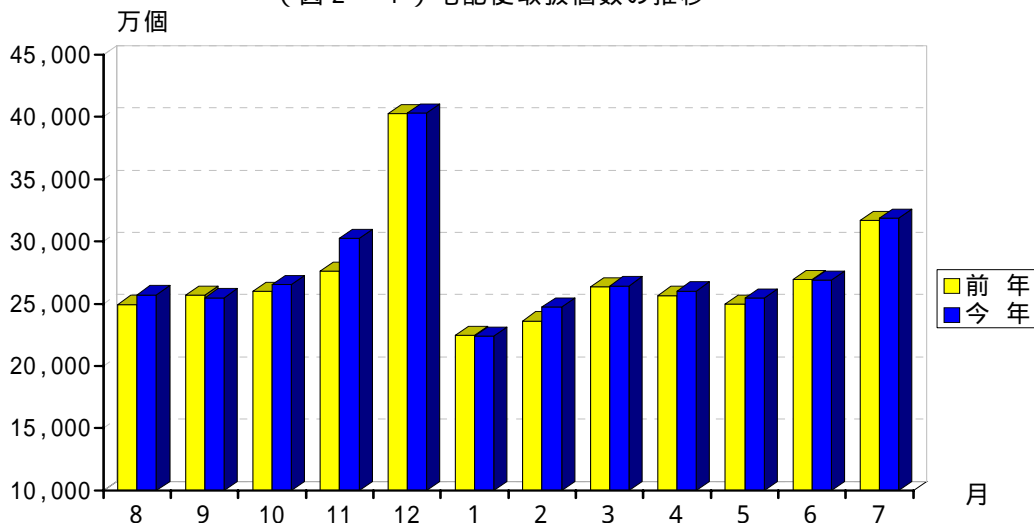
(2) 宅配便の概況

調査対象 20 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、318,672 千個で、前月と比べ 約 4,975 万個増加したため、前月比 118.5% (季節調整済み 100.4%) となり、前年同月との比較では、約 199 万個増加したため、前年同月比 100.6%の実績であった。

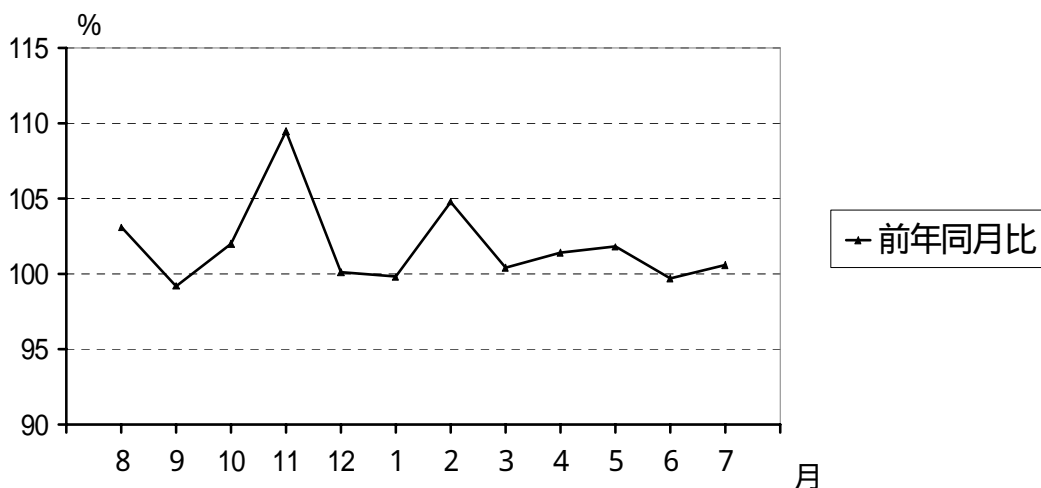
(図2 - 1、図2 - 2 参照)

注)平成 20 年 4 月から宅配便輸送については調査対象が 1 社増え、20 社となった。
対前年同月比並びに対前月比は、20 社ベースで比較している。

(図2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 調査対象 26 社の品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、平均稼働日数の増加や中元期の影響等により、すべての品目で輸送量の増加がみられた。増加要因としては、工場・生産地からの貨物増がほぼすべての品目に共通してみられたほか、「食料工業品」、「日用品」及び「その他(宅配便・百貨店配送品)」では中元期の影響と思われる季節的需要増等も増加要因となっている。地域的には、「機械」及び「日用品」が関東地方、中部地方、近畿地方等、大都市圏を抱える地域を中心に増加したほか、「その他(宅配便・百貨店配送品)」が東北、関東地方、大阪、中国をはじめとして全国的に増加した。

前年同月と比べると、貨物量は3ヶ月ぶりに増加に転じた。品目別では、「機械」で工場・生産地からの貨物増が、「その他(宅配便)」で工場・生産地からの貨物増及び商社・問屋からの貨物増を要因とする貨物増がみられた。地域的には、「機械」が東京、関東、北陸信越及び愛知で、「その他(宅配便)」が東京、関東をはじめとして全国で増加した一方、北海道において「日用品」の貨物量の減少が目立った。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 26社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因	
	著増	増	変らず	減	著減				
前 月 に 比 べ て	農水産品	1	3	14		1	青果物	4	
	金属製品		6	14	1		神奈川県、関東、北陸信越、大阪、近畿	4	
	機械		7	12		2	その他の機械、機械部品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国	4, 8
	化学工業品		8	14		1	合成樹脂、その他の化学工業品	神奈川県、関東、中部、近畿地方	4, 7, 8
	繊維工業品		6	16		1	織物	神奈川県、関東、中部地方、近畿	4, 7
	食料工業品		5	13		3	飲料 その他の食料工業品	東京、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、九州地方	8
	日用品	1	10	10		2	玩具、その他の日用品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、九州	4, 5, 8
	その他	4	9	8		1	宅配便、百貨店配送品	東北、関東地方、大阪、中国、全国	2, 4, 5, 8
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	2	15		1	野菜		
	金属製品		3	16		2			
	機械	1	3	16		1	機械部品	東京、関東、北陸信越、愛知	4
	化学工業品		3	18		1	その他の化学工業品		
	繊維工業品		1	20		2			
	食料工業品		4	12		4	加工食品 飲料		
	日用品		5	11		6	その他の日用品 書籍・印刷物、衣服	北海道	
	その他	1	5	11		5	宅配便	東京、関東、全国	4, 5

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2 . 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 791 社 / 調査対象事業者数 1,075 社）の輸送量は、前月比 105.8%、前年同月比 101.7%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前 月 比	105.8%	106.0%	105.2%	100.9%	104.4%	103.4%	106.9%	107.7%	103.2%	108.6%	125.3%
前年同月比	101.7%	100.8%	101.3%	96.4%	104.5%	101.8%	100.3%	104.2%	100.4%	103.9%	122.0%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	本月の輸送は、対前月比 106.0%、対前年同月比 100.8%であった。品目別には、建設関連の需要増等により「砂利・砂・石材」、「セメント」の輸送量が増加したほか、季節的需要増等により「野菜・果物」、「水産品」、「食料工業品」等の輸送量にも増加がみられた。一方、季節的需要減等により「工業用非金属鉱物」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。
東北	本月の輸送は、対前月比 105.2%、対前年同月比 101.3%であった。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果物」、「食料工業品」の輸送量が増加したほか、工場・生産地からの貨物増等により「紙・パルプ」の輸送量にも増加がみられた。一方、天候の影響等による貨物減等により「水産品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
関東	本月の輸送は、対前月比 100.9%、対前年同月比は 96.4%であった。品目別には、季節的需要増により「食料工業品」の輸送量が増加した。一方、輸送量が顕著に減少した品目はなかった。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
北陸信越	本月の輸送は、対前月比 104.4%、対前年同月比は 104.5%であった。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果物」の輸送量が増加したほか、「その他の石油製品」、「日用品」の輸送量にも増加がみられた。一方、建設関連の需要減等により「その他の石油製品」、「金属製品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は減少傾向、以降は横這い傾向と予想される。
中部	本月の輸送は、対前月比 103.4%、対前年同月比は 101.8%であった。品目別には、工場・生産地からの貨物増等により「機械」の輸送量が増加したほか、季節的需要増等により「日用品」の輸送量にも増加がみられた。一方、工場・生産地からの貨物減等により「水産品」の輸送量が減少したほか、「セメント」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
近畿	本月の輸送は、対前月比 106.9%、対前年同月比は 100.3%であった。品目別には、季節的需要増等により「食料工業品」の輸送量が増加したほか、倉庫への入出庫増等により「鉄鋼」、「金属製品」の輸送量にも増加がみられた。一方、輸送量が顕著に減少した品目はなかったものの、「水産品」の輸送量には若干の輸送量の減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
中国	本月の輸送は、対前月比 107.7%、対前年同月比は 104.2%であった。品目別には、季節的需要増等による「食料工業品（飲料）」の輸送量増加が顕著であったほか、建設関連の需要増等により「鉄鋼」、「セメント」の輸送量にも増加がみられた。一方、生産調整等により「その他の石油製品」の輸送量が減少したほか、輸出入減等により「繊維工業品」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
四国	本月の輸送は、対前月比 103.2%、対前年同月比は 100.4%であった。品目別には、季節的需要増等により「食料工業品」の輸送量が増加した。一方、建設関連の需要減等により「鉄鋼」、「セメント」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
九州	本月の輸送は、対前月比 108.6%、対前年同月比は 103.9%であった。品目別には、季節的需要増等により「野菜・果物」、「日用品」の輸送量が増加したほか、建設関連の需要増等により「機械」の輸送量にも増加がみられた。一方、建設関連の需要減等により「その他の化学工業品」、「その他の製造工業品」の輸送量が減少したほか、輸出入減等により「紙・パルプ」の輸送量にも減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。
沖縄	本月の輸送は、対前月比 125.3%、対前年同月比は 122.0%であった。品目別には、季節的需要増により「食料工業品（飲料水・ビール等）」の輸送量に増加がみられた。一方、先月と同様、燃料費高騰の影響により「水産品（主にマグロ類）」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は微増傾向、以降は増加傾向と予想される。

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局										
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	2			1					5		8
	減							1				1
2. 野菜・果物	増	2	5		4		1	4	1	7		24
	減		1		1			3		4		9
3. その他の農産品	増				1	1				1		3
	減	1								1		2
4. 畜産品	増	1	1									2
	減							1				1
5. 水産品	増	3								1		4
	減	1	2			1	1	1		1	2	9
6. 木材	増	3	1		1			3				8
	減	1			1			1				3
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増				1					2		3
	減	1	1									2
9. 金属鉱物	増									1		1
	減											
10. 砂利・砂・石材	増	10	1				1	1		6		19
	減	4	1		2			1	1	5		14
11. 工業用非金属鉱物	増		1							1		2
	減	1										1
12. 鉄鋼	増		2		1		2	6		1		12
	減	1					1		2	1		5
13. 非鉄金属	増											
	減									1		1
14. 金属製品	増	1	2	1	1	1	2	2			1	11
	減				2	1	1	1		2	1	8
15. 機械	増		1			3	2	4		6	1	17
	減	1	1			1	2	2		1		8
16. セメント	増	4			2			4		4		14
	減		2		1	1		1	2	1		8
17. その他の窯業品	増		1				1	1	1			4
	減		2					1	1	2		6

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		18. 揮発油	増	1	1		1				1	
	減	1								2		3
19. その他の石油製品	増	1			4					1		6
	減	1						4				5
20. コークス・ その他の石炭製品	増	1										1
	減				1							1
21. 化学薬品	増		1		1		1	1				4
	減						1					1
22. 化学肥料	増	1						1		1		3
	減	1	1							2		4
23. その他の化学工業品	増						1	5			1	7
	減							3		4		7
24. 紙・パルプ	増	1	2					3	1		1	8
	減	1						2		3		6
25. 繊維工業品	増											
	減							2	1			3
26. 食料工業品	増	5	5	2	1		7	16	4	3	1	44
	減		1					3		3		7
27. 日用品	増	1			2	2	1	2		4	2	14
	減							3		1		4
28. その他の製造工業品	増			1	1		2	2		1		7
	減			1				1		3		5
29. 金属くず	増									1		1
	減										1	1
30. その他のくずもの	増											
	減											
31. 動植物性飼・肥料	増	1	1	1						2		5
	減	3	2	1						2		8
32. 廃棄物	増	1	1				1	1		1		5
	減											
33. 輸送用容器	増	1						1		2		4
	減			1								1
34. 取り合せ品	増	2	2					3		3	1	11
	減					1		1		1		3
35. その他	増	1	2	1	5	1	2			6		18
	減			1	1	2	1	3		1		9